2　十二人の使徒

すくい主キリストの生まれる、三百年前のこと、十二人のむすこを持った、ひとりのお母さんがいました。このお母さんはとてもまずしくて、やっとのことでくらしていたので、どうやって、子どもたちの命をながらえたらいいか、わかりませんでした。

けれども、お母さんは、毎日、神さまに、むすこたちがみんな、やがて地上にあらわれると約束されたすくい主といっしょに、地上に生きていられるようにしてください、といのっていました。

いよいよ、まずしさがひどくなってきたので、お母さんは、むすこたちをつぎつぎに広い世の中へ送りだして、自分でパンをさがすようにいいました。

いちばん上のむすこは、ペートルスという名前でした。ペートルスは、家をでて遠くまで旅していきました。一日じゅう歩きつづけました。すると、大きな森にはいりました。出口をさがしましたが、どこにもありません。そのうちに、だんだん深くまよいこんでしまいました。おなかがすいてきて、ほとんど、もう立っていられなくなってきました。とうとう、すっかり弱ってしまって、横になり、もうじき死ぬんだろうなあ、と思いました。

そのとき、とつぜんそばに、小さな男の子があらわれました。その子は、天使のようにかがやいていて、美しく親切でした。子どもが、両手を強くたたいたので、ペートルスは、思わず目をあげて、その少年を見つめました。すると少年がいいました「どうして、そんなに悲しそうによこたわっているの？」ペートルスが答えました「ああ、わたしは、世の中を歩きまわって、パンをさがしているんです。なんとかして、約束されたすくい主

にお会いしたいと思って。それが、わたしのいちばん大きなねがいなんです！」すると、少年がいいました「それでは、ぼくといっしょにいらっしゃい。そうしたら、あなたのねがいをかなえてあげましょう」

そして、ペートルスの手をとって、ほら穴へつれていきました。ほら穴のなかにはいると、あたりいちめんに、金と銀と水晶がかがやいているではありませんか。そのまんなかに、十二このゆりかごがならんでいました。天使がいいました「この最初のゆりかごのなかに横になって、しばらくねむりなさい。あなたに、子もり歌をうたって、寝かせてあげましょう」。ペートルスは、いわれるままにしました。天使は、歌をうたってくれました。そして、ペートルスがねむりこむまで、ゆりかごをゆっくりゆすっていました。

ペートルスがねむっているあいだに、二番めの兄弟が着きました。その兄弟も、まもり神の天使がほら穴へつれてきて、ゆりかごに寝かせて、ねむらせました。そうやって、ほかの兄弟もみんな、じゅんばんにきました。そして、とうとう十二人の兄弟がみんな、金のゆりかごに横になって、ねむりました。十二人の兄弟はそうやって、三百年間ねむりつづけました。そして、この世のすくい主が生まれた晩に目をさましました。こうやって、すくい主とともに地上にあり、十二人の使徒とよばれました。

3　バラ

むかしむかし、あるところに、ふたりの子どもを持ったまずしいお母さんがありました。下の子は、毎日、森へいって、まきをとってこなければなりませんでした。あるとき、ずっとおくまでまきをさがしにいくと、ひと